

Governance

事業継続
マネジメント

社会課題に対する考え方

気候変動に伴う豪雨、台風や地震などの自然災害は、被災地の経済活動を停滞させ、企業に大きなインパクトを与える場合があります。

また、新型コロナウイルス感染症は、自然災害のような特定地域ではなく、全世界の経済活動を減速させるため、グローバルに事業や資材調達を展開している企業に重大な影響を与えています。

アンリツグループは、情報通信システムの進化、円滑な運用、食品・医薬品の生産など、社会インフラの維持に関わる事業をグローバルに展開しています。さまざまな災害発生時においても、社員の安全を確保した上で、事業を継続することは使命であり、重要な課題であると認識しています。

方針

災害対策

「災害・緊急対策基本規程」の災害対策基本方針において、BCM^{*}について規定しています。

災害対策基本方針

アンリツグループは、経営に重大な影響を及ぼす災害への防災体制を構築し、万一災害・事故等が発生した場合に、従業員と地域住民等のステークホルダーの安全を第一に図り、被害を最小限に抑止し、事業活動の早期回復を図ることにより、企業の社会的責任を果たし、アンリツグループの永続的發展を図る。

※ BCM (Business Continuity Management) : 事業継続計画 (BCP) 策定や維持・更新、事業継続を実現するための予算・資源の確保、事前対策の実施、取り組みを浸透させるための教育・訓練の実施、点検、継続的な改善などを行う平常時からのマネジメント

感染症対策

新型コロナウイルス感染症においては、災害対策基本方針の下、予防対策と事業継続に取り組んでいます。

体制 (災害対策、感染症対策)

アンリツグループは大規模災害や新型コロナウイルスのような感染症が発生した際、危機対策本部を設置し、対応を決定しています。

危機対策本部の構成

役職	構成員
本部長	社長
副本部長	防災統括責任者 (担当役員)
部員	本部長が指名した者 (海外担当役員、グループ会社社長など)

取り組み／活動実績

事業継続計画の策定

自然災害や感染症、突発的事象発生における被害最小化と事業活動の早期回復を図り、円滑な事業活動を継続することを目的として、各部門・グループ会社が事業継続計画 (BCP) を策定しています。

アンリツグループの製造拠点である東北アンリツ (株) では、地震や大雨による河川の氾濫などの自然災害を重要なリスクとして位置づけ、災害発生後になすべきことを具体的にプロセスごとに明確化しています。実際の大規模災害での教訓を受け、BCP 緊急発動基準を見直し、より幅広いリスクに備えるとともに、各リスク発生時の対応手順の精緻化を行っています。

また、世界的に感染が拡大し、大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症については、対策本部を設置し、感染症対応マニュアルに基づき対応してきています。お客さま、取引先さま、社員とその家族の安全確保と感染拡大の防止を最優先としつつ、お客さまへの製品・サービス提供の継続、および感染拡大により生じるさまざまな社会課題の解決に資する取り組みについて、

引き続き、適宜対策を講じていきます。

災害対策

● 福島県沖地震での対応

2021年2月13日(土)、23時7分頃に発生した福島県沖地震(マグニチュード7.3)は、宮城県および福島県で最大震度6強を観測し、福島県郡山市に所在する東北アンリツ(株)第一および第二工場の一部で被害を受けました。

地震発生直後、安否確認システム(EMC)が自動発報し、翌朝には対象地域全員の安否確認がとれました。建物・生産設備の点検では、建物に一部損傷および落下物などはあるものの生産設備への影響は軽微であったことから、修復作業・品質検証を行い、2月19日(金)始業時より通常業務を開始しました。

● 安定供給へのインフラ整備、免震装置を配備した グローバル本社棟

東北アンリツ(株)のリスク対策の一つとして、東北アンリツ(株)第二工場を2013年7月に開設しました。既存の第一工場と生産ラインを分散し、安定供給を図っています。また2015年3月には、グループコア機能の継続性を維持するためのBCP対策をコンセプトの一つとして、神奈川県厚木市にグローバル本社棟を建設しました。免震構造の採用により地震に対する安全性を高めるとともに、6日間の非常用電源を備えることで、災害時の本社機能継続の役割を果たしています。

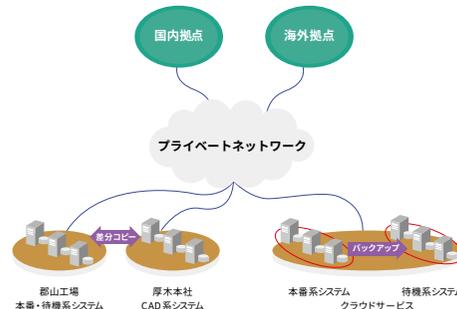
● 建物安全度判定サポートシステムの導入、設備の防災対策

2017年度より厚木本社地区の建屋において、建物安全度判定サポートシステムを導入し、順次拡大してきました。この取り組みは連続地震など、震災時の建屋の状況把握や立入規制の実施・解除について速やかに判断することを目的としています。あわせて天井や電気設備などの防災対策を実施しています。

2021年度は現在使用していない建屋の耐震補強を実施し、再活用する予定です。

● 情報システムの備え

アンリツグループでは、基幹システムや製品開発用CADシステムなどの重要なシステムのバックアップを行っています。万が一、メインシステムが被災しても、それぞれのデータのバックアップ先で情報システムを稼働することが可能です。また、災害発生に備えて、対応手順書や目標復旧時間を定めています。復旧訓練を定期的に行っており、その妥当性を評価し、問題に対しては是正しています。



感染症対策

新型コロナウイルス感染症においては、2020年1月末に設置した緊急対策本部にて引き続き、各種感染予防対策や感染者発生時対応に取り組みました。社内の感染症を防止するため、サーモグラフィの設置・増設や検温の徹底による水際対策をはじめ、テレワークの推進、マスク配布、消毒の徹底に加え、飛沫拡散防止用パネルの設置、会議室・エレベータ・食堂の利用におけるソーシャルディスタンスの確保、社外・社内のイベントのオンライン開催、出張、対面での顧客対応の制限など、非接触での業務を浸透させる新常態への取り組みを実践しています。さらに、マスク不足に備え、社内供給用として不織布マスクを自社で製造、配布しています。また、本社一本厚木駅間で社員専用の通勤送迎バスを運行するなど、感染予防対策の徹底を図っています。

緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置適用期間中は、7割から8割の社員がテレワークを行っています。

海外アンリツグループにおいても感染が拡大している国では、現地保健当局などの方針・指導に従い、手指消毒、マスク着用、パネル設置、ソーシャルディスタンスの確保、テレワークを行っています。

今後も感染予防対策の強化・徹底に努めます。

ステークホルダーごとの対応 (2021年7月31日時点)

ステークホルダー	取り組み
社員 (国内、海外アンリツグループ)	<ul style="list-style-type: none"> 出張制限、渡航禁止、駐在者一時帰国、会議・面会などの制限、体調不良報告の徹底、テレワーク、時差出勤、臨時車通勤許可、新型コロナウイルス感染症特別有給休暇制度の適用、子どもの臨時休校への対応 ソーシャルディスタンス確保、マスク配布、職場でのマスク着用徹底、手指消毒、執務室や食堂、トイレなど社内消毒の徹底、出社前検温、出社時のサーモグラフィカメラによる検温など 開発環境の一部を東北アンリツ(郡山市)へ移転、テレワークでの開発継続 自社でマスク製造を開始し、社員へ配布
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> 来訪前に直近の海外渡航歴や体調などに関するアンケートを実施 アンリツWeb展示会サイトの公開 5Gに関するウェビナー、測定器の操作ガイド、PQA製品の使用方法に関するウェビナーの開催 お客さまのテレワークを支援するコンテンツ集「あなたのテレワークをサポート」の公開 テレワークによるお客さま対応の実施 修理・校正の継続(一部業務は縮小)
株主、投資家	<ul style="list-style-type: none"> 決算説明会、IRミーティングのオンライン開催
サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> 取引先・調達先などからの情報収集・支援 感染状況や操業状況に応じた代替調達先の検討
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 近隣に備蓄していたDS2防塵マスクを寄贈 厚木市内の就労継続支援B型事業所*が制作したマスクの社内販売

*障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型事業所

不織布マスクを自社製造

アンリツは、不織布マスクを自社で製造し、社員に配布しています。この取り組みは、新型コロナウイルス感染症の長期化に備え、社員にマスクを安定供給し、感染予防することで事業継続を図るためのBCP対策です。

製造に当たっては、資材調達本部、SCM本部、経営企画室、人事総務部、アンリツ興産(株)が連携してプロジェクトチームを作り、製造設備の導入、材料調達、製造技術の習得などに取り組みました。継続的なマスク需要増

により材料調達に苦労しましたが、取引先さまのご協力により不織布をはじめとする材料の調達が実現しました。製造はアンリツ興産(株)の社員が担い、装置メーカーさまのアドバイスを受けながら技術を身に付けました。完成品は自社製品の金属検出機で金属異物が混入していないことを確認し、出荷しています。

社員に配布し、飛沫感染防止に役立てるとともに、お客さまや取引先さま、近隣の皆さまなどにも提供しています。



不織布マスクの製造現場



金属検出機

●マスクの品質について

衛生用マスクは、(一社)日本衛生材料工業連合会に属する全国マスク工業会が「マスクの表示・広告自主基準」と「衛生マスクの安全・衛生自主基準」を定め、適正な表示やフィルタ性能試験の統一化などを推進しています。

全国マスク工業会の厳格な審査により、製造しているマスクの安全性が認められ、アンリツ(株)は同会の会員企業となっています。収容箱には、会員として基準を遵守して製造したことを示すマークを表示しています。



自社製マスク

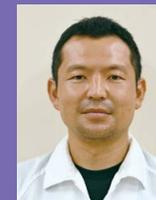


収容箱背面には、自主基準による表示と会員マークを表示

VOICE

高品質なマスクの製造で 感染対策に貢献

アンリツ興産株式会社
渋谷 大輔



マスクの製造は前例のないことでしたが、関係部門がワンチームとなって、材料の調達や製造での調整など、さまざまな課題を乗り越えました。試行錯誤しながらでしたが、現在は順調に製造しています。この取り組みが社内外の多くの皆さまの安全・安心を守ることに繋がると思い、やりがいを感じています。今後も高品質な不織布マスクの安定供給に努めます。